

もも・ネクタリン情報 No.4

令和6年5月2日発行



JAグリーン長野営農販売部・経済部
JAグリーン長野もも部会

長野県No.1のもも・ネクタリン産地を守ろう！

◆生育状況について

1. JA管内 川中島白桃

満開は昨年より10日程度遅い状況となっている。自園の生育状況をよく確認する。

	発芽	開花	満開	落花
平年	3/25	4/13	4/20	4/29
令和6年	3/31	4/12	4/18	
令和5年	3/14	4/2	4/9	4/15
令和4年	3/27	4/14	4/19	4/25
令和3年	3/13	4/2	4/17	4/24

◆生育状況と当面の重点作業について

- まだ凍霜害は、危険な時期です。報道・情報・指示により万全な対策を実施する。
- 凍害の発生状況を確認する。発芽等は、貯蔵養分で動き始めるが、凍害に遭った樹は、弱樹勢になっていき、ひどい樹は枯死にいたるので、6月頃までは樹体をよく観察する。
- 低温障害、落蕾症の発生もあるため、自園の状況をよく確認する。
- ネクタリンの袋かけは第5回の薬剤散布終了後から行い、5月末頃迄に終了させる。風当たりの強い圃場では、肌荒れが出やすいので外周だけでも早めに行う。
- 初期生育を良くし、樹勢や玉肥大向上の為、かん水は重要になる。
この時期は平年並みの降水量でも不足する時期となるため、降雨が少ない場合は15日程度に30mm程度又は10日程度20mm程度のかん水を積極的に行なう。
- 灰色かび病対策。果柄部にかく片や幼果が入り込むと、灰色かび病の元となる。
結実よく、摘果が遅れると特に目立つため、除去を徹底する。
- 葉面散布肥料を有効に活用する。

【もも薬剤防除】

◆第5回薬剤散布について

1. 散布時期：5月11日(土)～15日(水) 散布日 月 日

2. 調合量：水1000l当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
固着性展着剤アビオンE	66ml	—	—
トランスフォームフロアブル	50ml	カイガラムシ類・アブラムシ類	7日
コロナフロアブル	250ml	うどんこ病・黒星病	—
マイコシールド	66g	せん孔細菌病	21日

【ネクタリン薬剤防除】 ※もも・ネクタリン混植園

◆第5回薬剤散布について

1. 散布時期：5月11日(土)～15日(水) 散布日 月 日

2. 調合量：水1000l当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
固着性展着剤アビオンE	66ml	—	—
トランスフォームフロアブル	50ml	カイガラムシ類・アブラムシ類	3日
(コロナフロアブル)	250ml	うどんこ病・(黒星病)	—
マイコシールド	66g	せん孔細菌病	28日

【第5回薬剤散布 もも・ネクタリン薬剤防除共通事項】

3. 散布量：10a当り⇒450l以上

4. 散布上の留意事項

- ①アビオンEに代えて、K.Kステッカー3,000倍(水1000l当り33ml)を使用してもよい。
この場合、必ずK.Kステッカーは、ボルドー液調合後に混用する(凝固するため)
- ②もも混植園は、うどんこ病対策として、コロナフロアブルを加用散布する。
また、コロナフロアブルに代えて、イオウフロアブル500倍(水1000l当り200ml)を使用してもよい。
- ③マイコシールドに代えて、クプロシールド1,000倍(水1000l当りに100g)+クレフノン100倍(水1000l当り1,000g)を使用してもよい。薬害防止のためクレフノンを必ず加用する。展着剤はササラ3,000倍(水1000l当りに33ml)がよい。白く汚れやすいので周囲への飛散に注意する。

◆葉面散布肥料を有効に活用しよう

以前配布した「葉面散布肥料・特殊資材の使い方」を参考

1. 総合的な品質向上対策として、アミノ酸等のケルパック66、友果、オルガミン等を利用する。
2. 葉健全化や光合成能力向上として、マグネシウム(苦土)のビックマグ、グリーントップ70等を利用する。
3. 今後はマンガン欠乏の発生が見える時期にとなる。
毎年発生がある園は、発生前からの5月以降にグリーンデイズ・硫酸マンガンを利用する。

◆徒長枝になる新芽の早期掻き取りについて

主枝・亜主枝の背面や大枝の切り口、さらに長果枝・中果枝の基部10cm内の直上芽は、強勢な徒長枝となって無駄なエネルギーを使い、樹形を乱し良品生産を阻害する。

摘果作業に合わせ早めに掻き取り処分することが大事。結実量が少ない場合は、特に新梢管理に留意する。

◆ももうどんこ病並びにりんごうどんこ病(毛じ障害)について

毛じ障害は、りんご園(特に紅玉・つがる・シナノスイート等)の近隣では、特に多発が懸念されるため、注意が必要。

	もも うどんこ病	りんご うどんこ病(毛じ障害)
発生時期	落花30日頃から(本年は5月中下旬頃)	落花15日頃から(本年は5月上旬頃)

★「ももうどんこ病」の対策

①重点防除時期は、定期防除(5回目)対策薬剤を使用しているため、しっかりと実施する。

★発生した場合の対策の対策

①果皮が既に大きく変色したものや、サビ状になっているものは摘果する。被害果が多い場合は、中でも程度の軽い果実や果柄部側(ホゾ側)のものを優先に残し、空枝にはせず、適正着果量を確保する。

◆予備摘果を進める ※前回情報参照

1. 予備摘果…満開後20～30日頃

①予備摘果を始める時期となっている。結実が確認でき、良好な品種から進める。

2. 着果量と着果位置

1)仕上げ摘果の倍の量が基準

①長果枝(30cm以上)⇒中央から先端に4～5果

②中果枝(30～10cm)⇒先端側に2～3果 ③短果枝(10cm以下)⇒先端に1果

2)留意点

①本摘果の倍量を残す。②大きくて扁平な果実を残す。③小さい果実、奇形果、病虫害被害果を落とす。

④同節に2果着生しているものは1果にする。⑤葉芽がある果実を残す。

⑥側方から下向きの果実を残す。⑦主枝や垂主枝上の果実や結果枝の基部の果実は落とす。

◆せん孔細菌病の春型枝病斑・灰星病を除去しよう！！

落花期より春型枝病斑の発生が散見されている。園地により、状況が異なるが、果実被害に至ると、商品化率に大きな影響を及ぼし、収量に影響するため、甚大な被害にならぬよう、対策を徹底する。

1. 春型枝病斑と葉への感染症状の特徴

①春型枝病斑は開花期頃から現れ、芽基部がやや陥没し、薄い黒褐色を呈する。5月中下旬頃には黒色の典型的な病斑となる。枝病斑は芽基部に発生し、陥没してひび割れる。ヤニを噴出することもある。

※枝先端に花腐れ・枝枯れしているものは、灰星病の可能性も高いが、せん孔細菌病である事もある。

いずれの場合でも、剪除は必要。

②葉では、はじめに葉脈で区切られた不整形の斑点ができ、淡褐色～紫褐色の斑点となり、やがて病斑部分が乾いて抜け落ち、不整形の穴になる。



《栽培に関する営農技術員への問合せ》

徳武(篠ノ井西部): 080-1202-0260/外谷(篠ノ井東部・情報担当): 080-8048-6602

※篠ノ井西部は、当面、寺澤・松坂・佐藤・外谷も対応致します。

佐藤(信更): 090-7179-9866/伊藤(松代): 080-2239-6816

松橋(川中島): 090-4816-6297/根津(更北) 080-1203-8576

松澤(若穂) 080-1191-5166/寺澤(全域・情報編集): 080-1188-5229

吉澤(全域・情報監修): 090-2543-0365

栽培に関する電話対応は、担当地区関係なく対応できます。園地指導や地区組織関係のお問い合わせは、地区担当までお願い致します。

○果樹のアドバイザー(流通センター長兼務) 松坂(篠ノ井西部) 080-1188-4131

《栽培・販売に関する問合せ》各流通センター・共選所/営農販売部(本所): 292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部農業資材課: 299-3311

◆仕上げ摘果及びせん孔細菌病・灰星病対策講習会の開催について

下記の日程により講習会を開催致します。都合のよい会場にご参加下さい。

開催日	曜	集合時間	集合場所	担当
5月13日	月	午前 9:00	南原 杉山一男様園	松橋
		午前11:00	今井公民館裏	松橋
		午後 1:30	北原 飯島いえ様園	松橋
5月15日	水	午前 9:00	本道 宮沢雄彦様園	根津
			河島茂雄様園	松橋
		午前 9:30	小森 宮本芳樹様園	外谷
		午前11:00	上組 島田栄一様園	外谷
			本町 林今朝広様園	松橋
		梵天 丸山芳樹様園	根津	
午後 1:30	平井組 大屋俊一様園	松橋		
午後 2:00	中沢 北村政一様園	外谷		
5月16日	木	午前 9:00	阿弥陀堂 内村司様園	松橋
		午前 9:30	西寺尾杵淵火の見	外谷
			松代 五明秀樹様園	伊藤
			東横田公民館	徳武・寺澤
		午前11:00	西寺尾 倉田健治様園(旧西寺尾支所集合)	外谷
			今里公園集合	松橋
塩崎小学校南東 石川のふい様園	徳武・寺澤			
午後 1:30	四ツ屋公民館前	松橋		
5月17日	金	午前 9:00	川田 若穂営農資材センター南側	松沢
		午後 1:30	川中島・荒屋 松橋公男様園	松橋
		午後 2:00	青木島 小山博様園	根津